

暮らしの中のなか

153か国中121位!

毎年、世界経済フォーラム (WEF) は、男女格差を示すジェンダー格差指数を報告しています。この報告書はジェンダー格差を政治、経済、健康、教育などについて点数化して、順位が決められています。日本は2019年、153か国中110位から121位に下がり、過去最低となりました。私たちが何を「あたりまえ」と思って暮らしているかで問題が見えたり見えなくなったりします。私たちの身近な暮らしの中で、気になることはありませんか？

※「ジェンダー」=社会的・文化的につくられた性

- ① 家ではだれが家事をしているか 「ほとんど女性」 **78%** (2019)
- ② 「女子は男子よりも料理ができたほうがよい」と思う10歳女子 **85%** (2019)
- ③ 6歳未満の子をもつ夫婦の1日あたりの育児時間 **妻454分 夫83分** (2016)
- ④ 介護離職した10万人 **女性8万人 男性2万人** (2018)

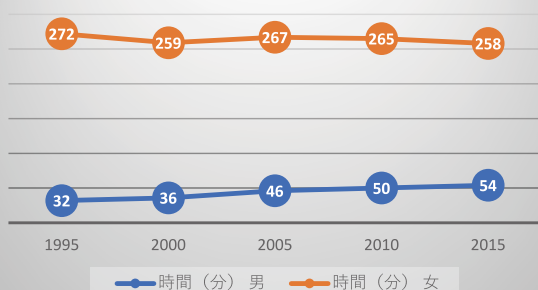
※①「ジェンダーに関する女子高校生調査報告書2019」 ②「10歳キラキラ白書2019版」 ③④総務省

「家事は女性向きの仕事」「女性が当然するもの」という時代から、男女が協力していくのが当然と思っている人が増えてきたよね。でも、家事の時間を調べてみるとあまり変わってないね。多くの女性が食事の支度、洗濯、掃除などに加えて子育てや介護を担っているね。暮らしていくために必要なことを女性だけでなく家族みんなで関わる姿を子どもたちに見せていきたいね。



「男性もできるのに、女性しかできない」と思っていることや逆に「女性もできるのに、男性しかできない」。「男だから」「女だから」。私たちのなかにある無意識のジェンダーに基づく「決めつけ」や「思い込み」があるんじゃないかな。

家事時間 (平日) 20歳以上



NHK放送文化研究所「国民時間調査」

2019年6月に行われたG20大阪首脳会議では、ジェンダー平等について再確認され、無償ケア労働 (家事、子育て、介護) の男女格差に取り組むことが話し合われています。

ジェンダー格差

- ⑤ 育休を「とりたい」「できればとりたい」新入社員の男性 **67.6%** (2019)
- ⑥ 男性の育休取得率 **7.48%** 女性は**82.2%** (2019)

※⑤三菱UFJリサーチ&コンサルティング ⑥厚生労働省

国は、男性の育休取得率が「2025年に30%」を目標にしている。でも、「2020年13%」も難しい。男性が取りやすい社会をつくるには、多くの女性の意見や子育てをしてきた男性の意見を聞いていくことが大事だね。



厚生労働省は、男性が休みやすくするために、育児休業制度の見直しを進めているよ。「男性産休」が新設され、女性も育休が分けられるようになり、『二人で育休の取り方が工夫できる。また、1年未満の非正規雇用の人も取得できる。企業にも対象者への説明などが義務付けられる。』等の改正をし、2022年以降の施行をめざしているよ。

- ⑦ 地方議員 **13.2%** 女性議員ゼロまたは一人だけの地方議会 **44.7%** (2019)
- ⑧ 市区町村長 **2.0%** (2019) ⑨企業の部長職 **6.6%** (2018)
- ⑩ 賃金格差 **73.3%** 男性=100としたときの女性の給与水準 (2018)

※⑦朝日新聞アンケート ⑧⑨内閣府 ⑩厚生労働省

APEC(アジア太平洋経済協力)加盟国・地域における女性リーダーに関する調査より

国名	分野	2015年	2017年
カナダ	閣僚	30%	50%
インドネシア	最高経営責任者	5%	30%
ペルー	高等裁判所裁判官	9%	27.1%
ロシア	上院議員	8.4%	17.1%



政府や経済界が優先課題として取り組みを進め、3年間でこんなに女性が活躍している国もあるよ。ジェンダー平等の社会をつくるために、私たち一人ひとりができることは、何だろう。



「『最高裁判所に何人の女性判事がいれば十分か』と聞かれることがあります。私が『9人』と答えるとみんなが驚きます。でも、9人の判事が全員男性だったときは、誰もそれに疑問を抱かなかったのです。」

ルイス・ベイダー・ギンズバーグ